

第3章 妊娠・出産にかかる相談体制と対応状況

1 慈恵病院での相談対応の状況

慈恵病院では、平成14年から定期的に期間を限定して実施していた「妊娠かっとう（悩み）相談」を、ゆりかごの計画を機に充実させ、ゆりかご開設前の平成18年11月から24時間無料電話相談（SOS 赤ちゃんとお母さんの相談窓口）を開始した。この電話相談は、24時間365日体制で3人の相談員^(※)が対応している。

相談は全国から寄せられ、相談件数は増加傾向にある。ゆりかごと一体的な運用がなされていることもあり、電話相談に限らず、来院による相談や、緊急な対応を必要とする深刻な事例なども見られる。こうした事例では、ゆりかご利用事例とも共通する背景を持つ者も多く、ゆりかご利用の潜在層ともいえる事例が含まれている。

(※) 慈恵病院職員3名で電話相談に当たってきたが、平成23年3月からは、相談員のうち2名を外部委託している。

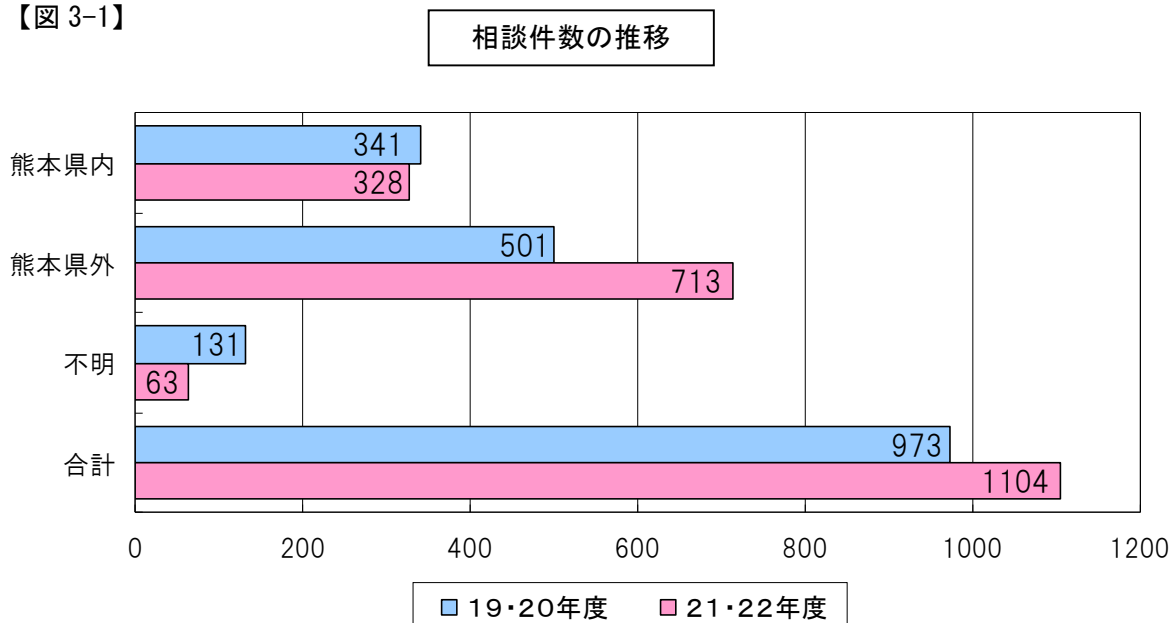
「県検証報告書」では、平成19、20年度の状況について報告されているため、本報告では平成21、22年度の状況についてまとめた。

(1) 相談対応の実績

ア 相談件数の推移

慈恵病院に寄せられた新規の相談件数は平成21年度に513件、平成22年度591件、合わせて1104件の相談が寄せられており、増加の傾向にある。これを19、20年度の合計973件と比較すると13.5%の伸びとなっている。

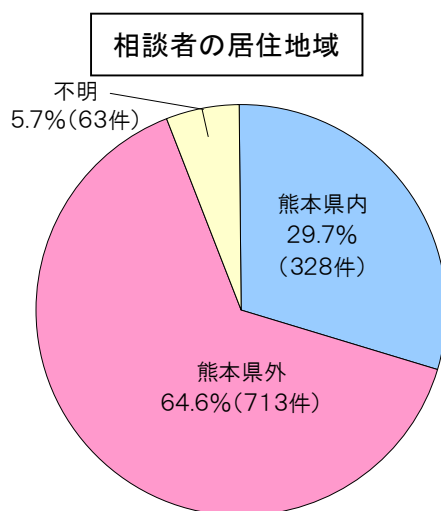
【図3-1】



イ 相談者の居住地域

相談者の居住地域は、県内からは 328 件 (29.7%)、県外からは 713 件 (64.6%)、不明が 63 件 (5.7%) であり、県内に比べ県外から多くの相談が寄せられている。

【図 3-2】



ウ 相談方法、相談時間

(7) 相談の方法

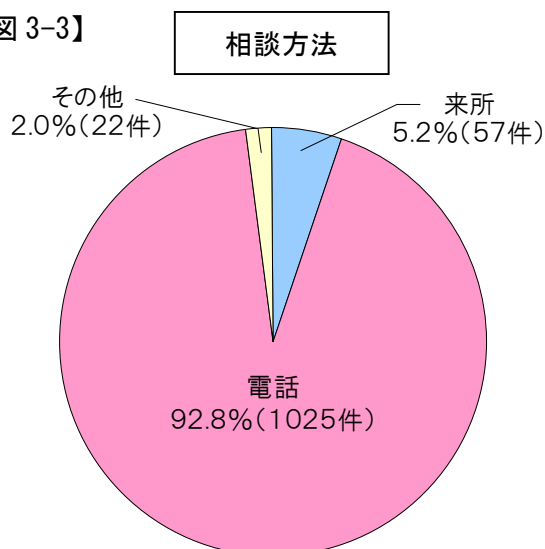
方法別の相談件数は、電話が 1025 件 (92.8%)、来所 57 件 (5.2%)、となっており、電話相談が全体の約 9 割を占めている。電話相談窓口にもかかわらず、来所での相談もみられることが、他の電話相談機関にはみられない特徴であり、この傾向は 19 年度から続いている。

(1) 相談の時間帯

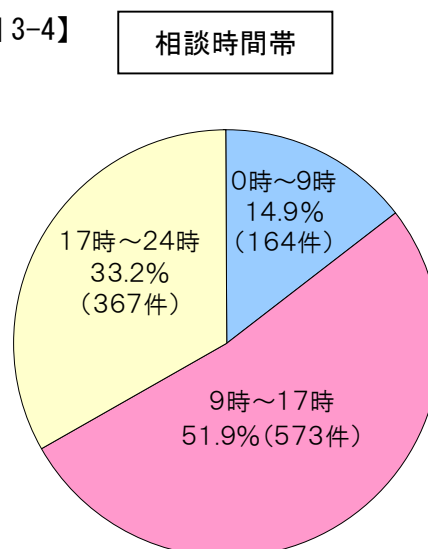
時間帯別相談件数は、9時から17時までが 573 件 (51.9%) と過半数を占め、次いで 17時から24時までが 367 件 (33.2%)、0時から9時までが 164 件 (14.9%) となっている。

昼間 (9時から17時まで) の時間帯が 5 割を占めているが、夕方から夜中までの時間帯も 3 分の 1 を占めており、さらに深夜から早朝の時間帯にも一定の相談があっている。

【図 3-3】



【図 3-4】



エ 相談者の状況

(7) 相談してきた者

母親本人が 781 件 (70.7%) と最も多く、次いで、家族・知人 175 件 (15.9%)、夫・パートナー 99 件 (9.0%) となっている。母親本人からの相談は約 7 割である。

(1) 相談者の年齢

相談者の年齢別件数は、年齢順に、15 歳未満 17 件 (1.5%)、15～18 歳未満 74 件 (6.7%)、18～20 歳未満 59 件 (5.3%)、20 歳代 388 件 (35.1%)、30 歳代 337 件 (30.5%)、40 歳代 74 件 (6.7%)、50 歳以上 19 件 (1.7%) などとなっている。10 歳代から 20 歳代で 538 件 (48.7%) と半数近くを占めている。

(ウ) 未婚・既婚の別 (婚姻の有無)

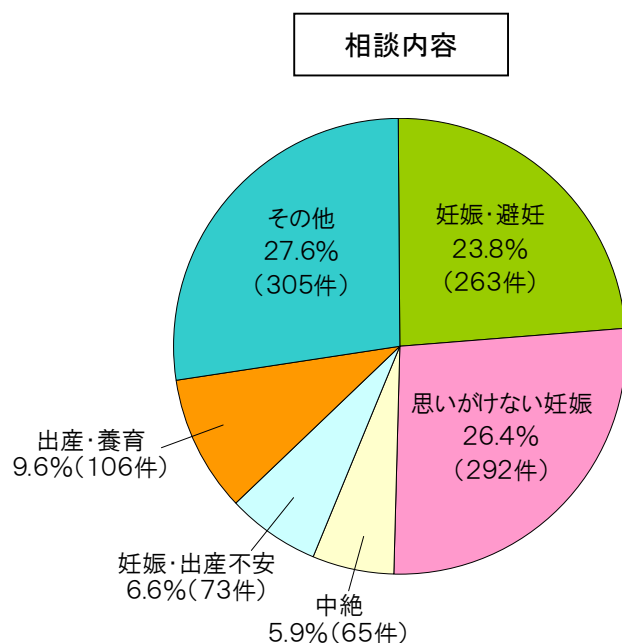
未婚・既婚別件数では、既婚 (婚姻中) 442 件 (40.0%)、未婚 416 件 (37.7%)、離婚 71 件 (6.4%) の順になっている。未婚者より既婚者からの相談が多くなっている。

オ 相談内容及び対応状況

(7) 相談内容

相談内容別件数は、思いがけない妊娠についての相談が 292 件 (26.4%) と最も多く、次いで妊娠・避妊に関する相談 263 件 (23.8%)、出産・養育についての相談が 106 件 (9.6%)、妊娠・出産前後の不安に関する相談 73 件 (6.6%)、中絶についての相談 65 件 (5.9%) などとなっている。

【図 3-5】



(1) 対応状況

対応状況では、傾聴・助言が 531 件 (48.1%) と最も多く、次いで他機関紹介が 254 件 (23.0%)、情報提供が 203 件 (18.4%)、来所案内 81 件 (7.3%)、緊急対応

33件（3.0%）などとなっている。

(2) 相談事例への緊急的対応（緊急対応・緊急面談）

病院相談事例の中で緊急的対応を行ったケースは、平成21年度21件、平成22年度12件、合計33件であった。

このうち、陣痛が既に始まっているなどしており、何らかの「緊急対応」を必要としたものが12件、最初の電話相談を受けずに、直接来院し（本人又は家族同行、紹介など）、面接面談を希望した場合や、産科で妊婦健診受診中に不安定になるなど、面談の必要を感じ、急遽、面談を行った場合などの「緊急面談」を行ったものが21件となっている。なお、ゆりかごのインターホンを押した事例は、平成21年度1件であった。

【表3-1】

（単位；件）

	21年度	22年度	合計
緊急対応	10	2	12
緊急面談	11	10	21
合計	21	12	33

このうち、特筆すべき緊急対応・緊急面談の事例は、次のとおりである。

- ◆相談事例A：ゆりかごのインターホンを押して相談した事例。夫の浮気が原因でけんかし、睡眠薬等を飲んで入院したが、退院後自宅には帰りたくないとのことで母親と子どもが来院相談。
- ◆相談事例B：ゆりかごの前からSOS電話相談した事例。別れた交際相手の子どもを妊娠後、今の夫と結婚した。夫は妊娠していたことを知って結婚したが、育てることはできないと言われ、出産したらゆりかごに預けることを考えていた。子どもを預かってほしいとのことで来院。本人に対し乳児院で預かるか、養子に出すかになることを伝え、病院から管轄の児童相談所へつないだ。
- ◆相談事例C：ゆりかごの前からSOS電話相談した事例。未婚で出産し、子どもを保育園に預けて働きたいとして、区役所や児童相談所、ハローワークにも行ったが、仕事が決まらないので、仕事や住むところが決まるまで預かってほしいとのことで近畿地方から車を運転して来院。
- ◆相談事例D：ゆりかごの前で職員に会い面談になった事例。半年ほど前から夫とけんかが絶えず、離婚を考えている。子ども二人は夫の両親が面倒見るとしていたが、結局、自分で見なければならなくなった。しかし、自分の両親も病気で、自分も無職でありお金がないので面倒が見られないとしてゆりかごへ預け入れるために来院。
- ◆相談事例E：来院し職員に声をかけ面談になった事例。現在妊娠33週。結婚しよう思っていたが、7か月のときに別れてくれといわれた。実家の両親からも出産・子育てに反対され、おばに面倒を見てもらっている。経済的に一人で育てられないとのことで来院。特別養子縁組手続きになる。
- ◆相談事例F：県外居住の男性からの相談。相手の女性が妊娠10か月だが医療機関未受診で、母子手帳も

なく、予定日不明で出産する病院を探している。父親は前の交際相手で、育てることは困難として、施設やゆりかごを考えている。緊急出産の受け入れ可能な病院を紹介、同日帝王切開で出産。

- ◆相談事例 G：県外から電話相談があり緊急対応した事例。女兒を自宅出産。妊娠したときには、交際相手が面倒を見てくれることだったが、会社が倒産し相手が行方不明になった。1人では育てられず、養子に出したいと相談。養子縁組あっせん関係者が関わり、特別養子縁組の手続きになる。

(3) 相談事例での特別養子縁組の状況

【表 3-2】

(単位:件)

内容		年度				合 計
		19年度	20年度	21年度	22年度	
養親希望相談件数		189	126	151	171	637
特別養子 縁組事例 件数	慈恵病院での出産	18	22	20	23	83
	他院での出産	8	8	7	7	30
	計	26	30	27	30	113

※時点修正で、県検証報告書と数値が異なるものがある。

慈恵病院には、特別養子縁組で養親となることを希望する相談も寄せられており、相談件数は平成 21 年度、平成 22 年度の合計で 322 件となる。またこれらのうち 57 件について、慈恵病院から紹介された特別養子縁組あっせん関係者を介して、特別養子縁組の手続きに入っている。

(4) 慈恵病院における相談事例の特徴

慈恵病院における相談事例の 21 年度 22 年度 2 か年度の特徴は次のとおりである。

- ア 妊娠している本人からの相談が 70.7%と多い。
- イ 県内地域からの相談が 29.7%、熊本県外からの相談が 64.6%あり、広域の相談も依然多い。
- ウ 相談者の年齢は、20 代、30 代がそれぞれ 30%を超えており、18 歳未満からの相談も 8%ほどいる。
- エ 相談内容では思いがけない妊娠が最も多く、全体の 4 分の 1 以上 (26.4%) を占めている。
- オ 匿名の電話相談ではあるが、相談全体 973 件のうち 842 件 (86.5%) について、相談者が居住地域を明らかにしている。
- カ 平成 21 年度、22 年度で 56 件が特別養子縁組につながっている。平成 19 年度、平成 20 年度とあわせ、4 年間での合計は 112 件となっている。
- キ 緊急対応・緊急面談の事例の中には、ゆりかごの事例と同じく妊娠出産にかかわるひっ迫した事例がみられた。

2 妊娠・出産にかかる熊本県・熊本市における相談対応の状況

熊本県では、ゆりかご開設に併せて、中央児童相談所に電話回線を設けるとともに、県女性相談センター（妊娠とこころの相談^(注)）を含め、匿名での出産・養育に関する相談への対応を図った。また、熊本市においても、ゆりかごの開設と同時期に、新たに24時間の電話相談（妊娠に関する悩み電話相談）を始めた。また市役所本庁舎にある福祉総合相談室の相談員を増員するなどして相談体制の充実を図った。このように、熊本県、熊本市ともに電話相談及び来所相談による相談体制を図り、相談対応にあたっている。

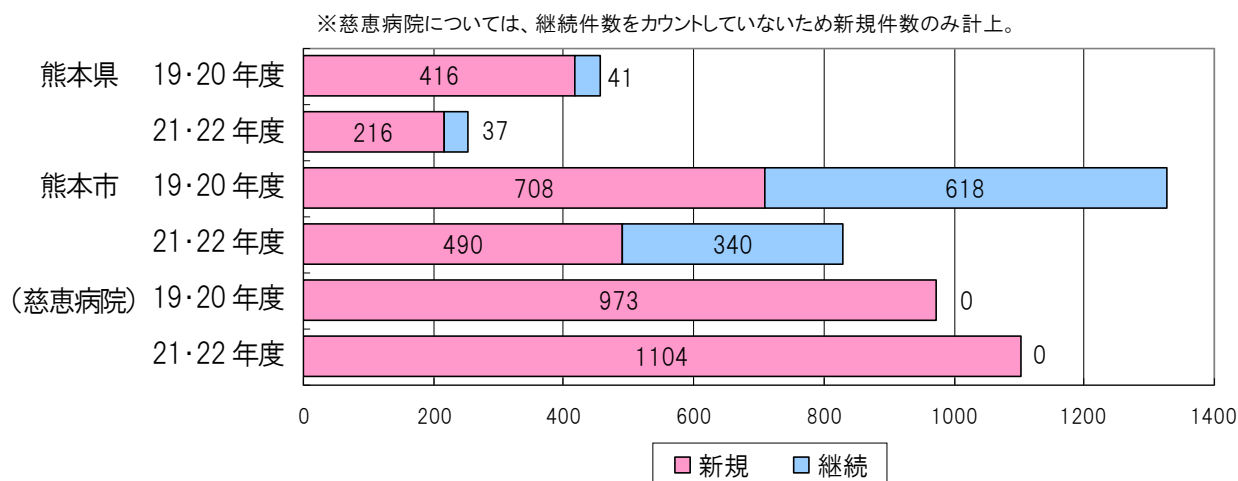
(注) 電話相談対応時間（月曜日から土曜日 9:00～22:00）

(1) 熊本県・熊本市における相談対応状況

ア 相談件数

平成21、22年度の相談件数は、合計で熊本県253件、熊本市830件となっている。いずれも19年度、20年度と比較して減少している。

【図3-6】



イ 相談方法、時間帯

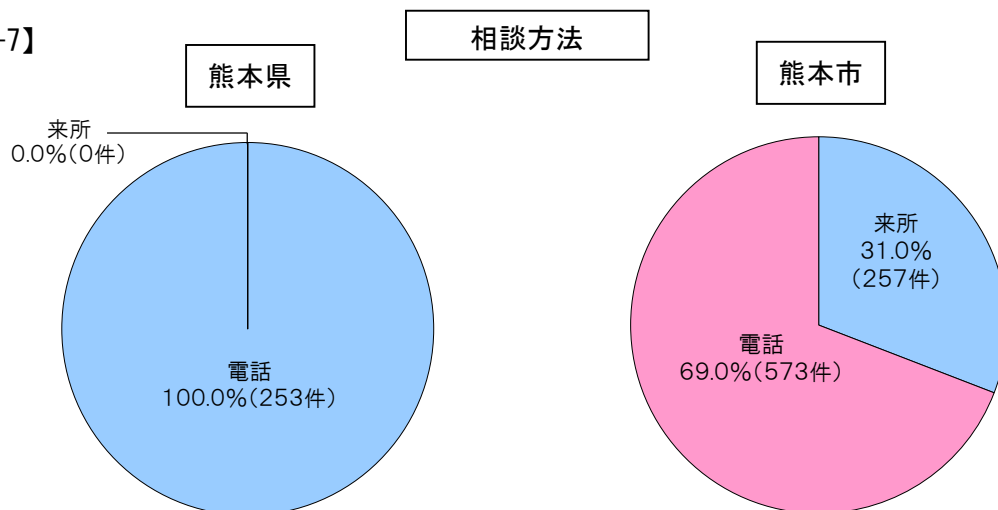
(7) 相談の方法

方法別の相談件数は、熊本県では電話対応のみで253件（100.0%）、熊本市では電話が573件（69.0%）来所が257件（31.0%）、となっている。

【表3-3】

			21年度		22年度		合計	
			件数	%	件数	%	件数	%
相談方法	熊本県	来所	—	—	—	—	—	—
		電話	129	100.0	124	100.0	253	100.0
		計	129	100.0	124	100.0	253	100.0
	熊本市	来所	141	32.1	116	29.7	257	31.0
		電話	298	67.9	275	70.3	573	69.0
		計	439	100.0	391	100.0	830	100.0

【図 3-7】



(1) 相談の時間帯

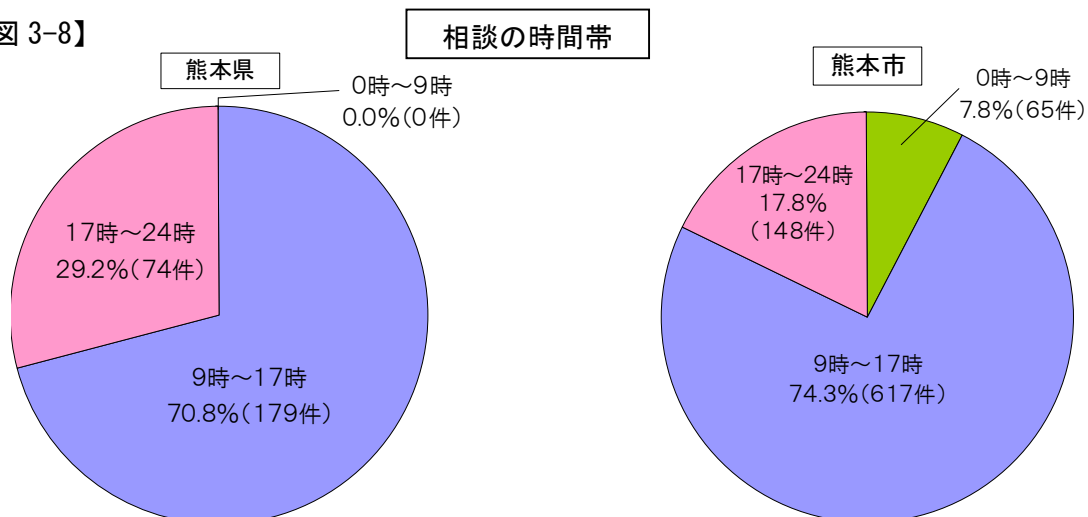
時間帯別相談件数は、熊本県では9時から17時までが179件（70.8%）で、次いで17時から24時までが74件（29.2%）となっている。熊本市では、9時から17時までが617件（74.3%）で、次いで17時から24時までが148件（17.8%）、0時から9時までが65件（7.8%）となっている。

このように県、市とも昼間（9時から17時まで）の時間帯が7割を占めている。

【表 3-4】

			21年度		22年度		合計	
			件数	%	件数	%	件数	%
相談 時間帯	熊本県	0:00～9:00	0	0.0	0	0.0	0	0.0
		9:00～17:00	95	73.6	84	67.7	179	70.8
		17:00～24:00	34	26.4	40	32.3	74	29.2
		計	129	100.0	124	100.0	253	100.0
	熊本市	0:00～9:00	28	6.4	37	9.5	65	7.8
		9:00～17:00	352	80.2	265	67.8	617	74.3
		17:00～24:00	59	13.4	89	22.8	148	17.8
		計	439	100.0	391	100.0	830	100.0

【図 3-8】



ウ 相談者の状況

熊本県では本人が214件（84.6%）と最も多く、次いで、家族・知人26件（10.3%）などとなっている。

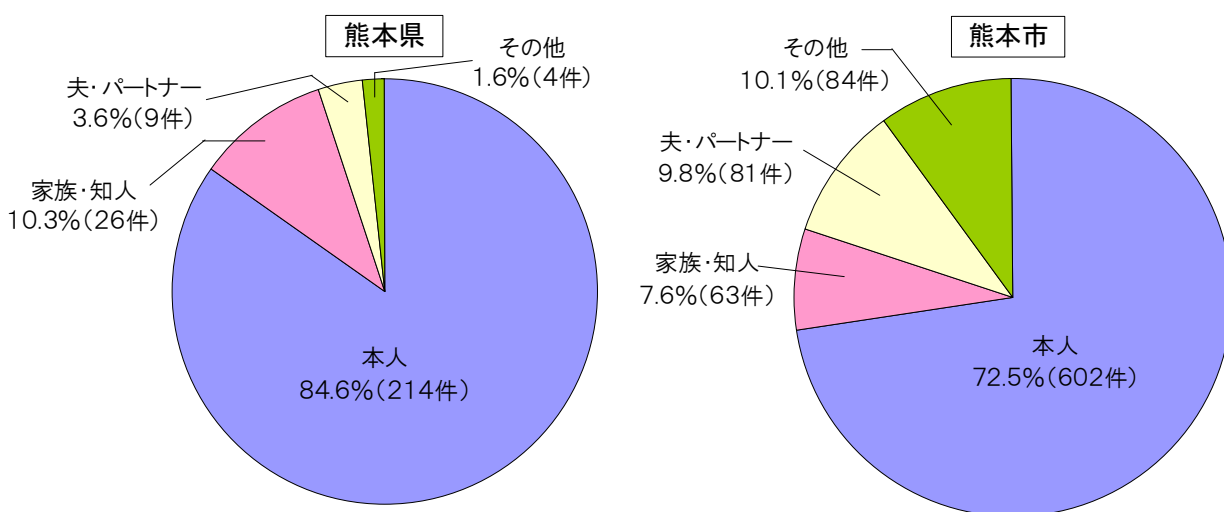
熊本市においても、本人が602件（72.5%）と最も多く、次いで夫・パートナー81件（9.8%）、家族・知人63件（7.6%）などとなっている。

【表 3-5】

			21年度		22年度		合計	
			件数	%	件数	%	件数	%
相談 してきた 者	熊本県	本人	108	83.7	106	85.5	214	84.6
		家族・知人	11	8.5	15	12.1	26	10.3
		夫・パートナー	8	6.2	1	0.8	9	3.6
		その他	2	1.6	2	1.6	4	1.6
		計	129	100.0	124	100.0	253	100.0
	熊本市	本人	320	72.9	282	72.1	602	72.5
		家族・知人	37	8.4	26	6.6	63	7.6
		夫・パートナー	35	8.0	46	11.8	81	9.8
		その他	47	10.7	37	9.5	84	10.1
		計	439	100.0	391	100.0	830	100.0

【図 3-9】

相談してきたもの



エ 相談内容

相談内容別件数では、熊本県では妊娠・避妊に関する相談107件（42.3%）と最も多く、次いで思いがけない妊娠についての相談が38件（15.0%）、中絶についての相談20件（7.9%）、出産・養育についての相談が17件（6.7%）、妊娠・出産前後の不安に関する相談5件（2.0%）などとなっている。

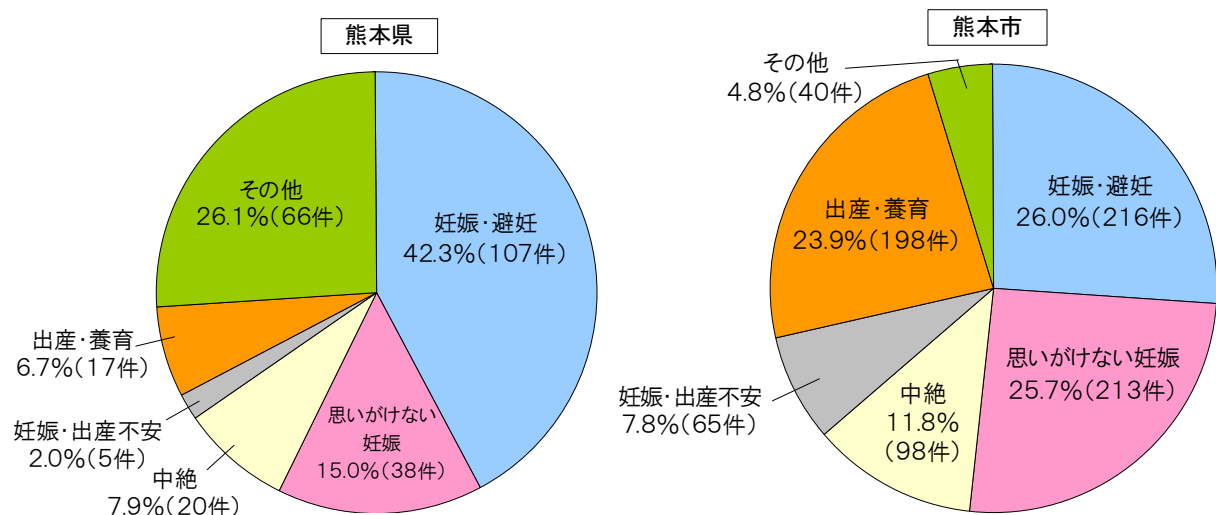
熊本市では、妊娠・避妊に関する相談が216件（26.0%）と最も多く、次いで思いがけない妊娠についての相談が213件（25.7%）、出産・養育についての相談が198件（23.9%）、中絶についての相談98件（11.8%）、妊娠・出産前後の不安に関する相談65件（7.8%）などとなっている。

【表 3-6】

			21年度		22年度		合 計	
			件数	%	件数	%	件数	%
相談内容	熊本県	妊娠・避妊	50	38.8	57	46.0	107	42.3
		思いがけない妊娠	21	16.3	17	13.7	38	15.0
		中絶	17	13.2	3	2.4	20	7.9
		妊娠・出産不安	2	1.6	3	2.4	5	2.0
		出産・養育	4	3.1	13	10.5	17	6.7
		その他	35	27.1	31	25.0	66	26.1
		計	129	100.0	124	100.0	253	100.0
	熊本市	妊娠・避妊	96	21.9	120	30.7	216	26.0
		思いがけない妊娠	91	20.7	122	31.2	213	25.7
		中絶	53	12.1	45	11.5	98	11.8
		妊娠・出産不安	30	6.8	35	9.0	65	7.8
		出産・養育	143	32.6	55	14.1	198	23.9
		その他	26	5.9	14	3.6	40	4.8
		計	439	100.0	391	100.0	830	100.0

【図 3-10】

相談内容



オ 行政への相談の特徴

熊本県・熊本市に対する相談についての21年度22年度の特徴は次のとおりである。

- (ア) 県では電話相談が100%、市では電話相談が約70%、来所相談が約30%となっている。
- (イ) 相談時間帯では県、市とも、昼間（9：00～17：00）が約70%となっている。
- (ウ) 相談者別では、本人からの相談が県では80%以上、市では70%以上である。
- (エ) 相談内容別では、県では「妊娠・避妊」に関する相談が42%と最も多く、市では「出産・養育」に関する相談が27%、次いで「妊娠・避妊」、「思いがけない妊娠」の相談がそれぞれ24%と多い。これは、市では養育相談における支援窓口を持っていることによるものと思われる。